

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200718		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	えいむの社 (グループホーム)		
所在地	静岡市清水区北矢部851-1		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200718&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と家族との繋がりを大切に、また地域住民との交流の下で入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、その人らしく笑顔で生活が送れるように支援します。登録定員12名の小規模多機能型居宅介護と共用のため、リビングは十分な広さを設け、閉鎖的にならないように配慮しています。併設の訪問看護ステーションエィムとの24時間緊急対応体制のもと、体調管理に配慮し早期対応することにより安心して生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問看護ステーションとの併設、小規模多機能型居宅介護事業所との一体的なサービス提供という、スケールメリットを活かした取り組みに特長がみられる事業所である。通常なら入院となるケースを訪問看護と一体化したケアサービスでここでの暮らしを続けることができたり、小規模多機能の通いの利用者の顔ぶれによってその日の雰囲気があり、グループホームの利用者にいい意味で刺激があるという。また、徒歩数分の場所に他法人の事業所があり、防災訓練や勉強会などの事業において協力関係を築いている。事業所のまつりには障害者の就業支援事業所にも参加してもらうほか、地域住民100名余で賑わっていて、日頃の事業所の努力が覗える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の特性である訪問看護ステーションの併設、小規模多機能型居宅介護との一体的なサービスの提供という点を踏まえ、実践につなげている。	共用空間に掲げていて、利用者や面会の家族の目にも触れるようにしている。管理者がつくったものであるため、今後は職員の考えや気持ちも入れてゆきたいと考えていて、次回の月例会ア会議で議題にする予定でいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や行事に参加している。防災訓練や運営推進会議に参加していただき、交流を深めている。	自治会に加入していて、地域清掃のほか隣組の皆さんとの食事会などにも参加している。車の行き来の配慮などごく普通の地域住民がする配慮に日々コツコツ取り組んでいて、地域に愛される事業所になるべく努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や防災訓練や「えいむの杜祭り」などに参加していただき、利用者との直接的交流に機会を設け、理解していただくように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に参加していただき、状況報告を行い、また疑問に思うことに答え、実践に活かしている。	家族を中心に包括や民生委員の参加もあり、内容も家族と事業所が満足するものとなっている。2ヶ月に1回の定例開催も視野に入れ、一つひとつ実りのあるものとなるよう確実に開催していきたいと考えている。	運営推進会議がより事業所の役立つものとなるよう、年間計画を立てることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加の依頼と、運営についての相談は担当者の方にその都度電話や、訪問し行っている。	新たに事業所が開設されることや、東日本震災の被災者を受け入れていることなどから、市の担当とは頻りに情報交換している。また、過去に代表が市社協の依頼で看取りについて講演をおこなっており、そのご縁から地域資源を紹介してもらえるなどのメリットを享受している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者は「身体拘束廃止推進看護実務者研修」講習に参加し、その後職員全体に内部研修を行っている。	月例のケア会議に勉強会の時間を設けていて、その中で意識づけに取り組んでいる。職員に危害が及ぶ事例も過去にはあったが、家族と職員で話し合いを繰り返し、拘束以外の方法で安全を図る選択をしている。このようにケアサービス全体において「だめ」ではなく、何かほかの方策について模索する方針をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者は「認知症実践リーダー研修」に参加し、スタッフリーダー2名は「認知症実践研修」に参加し、正しい知識を得て、実践に活かしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者は「認知症実践リーダー研修」に参加し、スタッフリーダー2名は「認知症実践研修」に参加し、正しい知識を得て、実践に活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、電話の窓口を設けその都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に3回個人面接を行い、直接経営者、管理者に意見が言える場を設けている。またスタッフ会議を定期的に行い、スタッフの意見を活かしている。	スタッフ会議を2ヶ月に1度開催していて、意図的に管理者不在の話し合いの場を設けている。自由に活発な意見が交わされていて、その中から昼休みと午後の休憩時間の弾力運用など、具体的な改善がおこなわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接にて本人の希望や意欲の確認をし、研修参加、資格取得に法人として研修費の援助や勤務の調整などバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面接にて本人の希望や意欲の確認をし、研修参加、資格取得に法人として研修費の援助や勤務の調整などバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護保険事業者の賀詞交歓会や、地域のケア会議、隣接する介護サービス事業所と合同で防災訓練に取り組んだり、積極的に機会を設け向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接面会し、ご利用前の不安や要望などを聞いている、ケアマネにサマリーなどの情報提供をお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内の見学を行い希望や要望を事前に把握し、申し送りノートに記入、職員間で情報を共有し不安を取り除くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やケアマネと事前に相談し、訪問看護やマッサージ等が必要な場合には受けられるよう適切なサービスの見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をしていく中で本人のできる事ややりたい事を見極める、全て職員がやるのではなく一緒に行う、自立してできることを前提に声掛けや誘導を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月毎の本人の様子を報告書として家族に郵送している、気になることがあれば面会時や、電話連絡時に報告相談をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人・親類の方々がいつでも面会や遊びに来ていただける場所、空間づくりを心掛けている、友人との外出を自由にできるよう努めている、要望があればなじみの場所や、思い出の場所にお連れしている	生家を一諸に訪ねたり、短歌の趣味が継続できるように支援するなど、なじみの関係継続に職員も尽力している。少しでも一緒にいる時間をもってもらいたいとの考えから、受診支援も家族にお願いし、できるだけ事業所単独の関わりとならないよう工夫している。友人と1週間に1度外食を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮した座席の配置、コミュニケーションの苦手な方々の間に職員を配置し、孤立しないよう共通の話題づくり、作業ができる空間づくり、少しずつ関わりあえるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネやご家族より相談、情報提供等の申し入れがある際には対応に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密にとり本人の希望、要望など思いを汲み取り生活に生かせるよう努めている。日々の会話で気づいたことがあればその都度介護記録に記入し職員間で情報を共有している	センター方式を一部導入したオリジナルのアセスメントシートを備えていて、本人の生活リズムとADLがひとめで把握できるようにしている。調査訪問時にも「利用者さんがこんなことを話していた」と伝えたとこ、こまめにメモをとっていて、利用者の想いへの取り組み意識の高さが覗えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・アセスメントシート等によりこれまでの状況を把握し、また、ケアマネやご家族からの情報収集をしている。本人との会話からも聞き出せるよう日々のコミュニケーションを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1時間ごとの様子を介護記録に記入し、心身状態(座位、立位、歩行の状態、感情)の観察を行っている。状況に応じてバイタルチェックを行っている、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度ケア会議を行い、利用者ごとの気付いた点を検討し介護計画に反映させている、	日々の気付きは「発語をそのまま」「その人の24時間がわかるように」ということを基軸に申し送りノートに記録している。申し送りノートとアセスメントシートをベースとして、職員全員でプラン化しており、プランが現場に反映する仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1時間ごとの様子を介護記録に記入し、朝夕の申し送り時に引き継いでいる。申し送りノートを終業時に必読することによって情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握し、訪問看護や訪問マッサージなど必要なサービスを提案している、各事業所との連携も密に行い必要としているサービスを見極めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	概ね3ヶ月に1回程度運営推進会議を行い地域住民、民生委員、包括、利用者ご家族と情報交換の場を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には日々の様子などを家族に伝え、必要であれば主治医との連絡もと、医療をうけられるようにしている	すべての利用者が在宅からのかかりつ医を継続していて、付き添いは家族がおこなっているが、無理な場合は職員が支援している。管理者が看護師であり、また訪問看護ステーションと併設のため、安心の環境にある。薬は一包化していて、誤薬を防ぐ施策も確認した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に併設の訪問看護ステーションの看護師による問診等状態把握のために訪問を受けている。また日々の変化について、24時間看護師に相談できる体制をつくり、早期に適切な処置、対処ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の状態報告、看護、介護サマリーを病院にだし、退院時には病院からのサマリーをもとに職員間で情報を共有し利用者の健康維持につとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向に従い、主治医、看護師の指示のもとに適切なケアをおこなっている	実績が1例あり、現在も看取りに取り組んでいる。契約書のなかに「終末期ケア対応指針」が閉じ込まれており、契約時に合意形成できている。本人、家族の意思を尊重しつつ、状態にみあった方法を選択できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜講習会に参加し、内部研修を行い、緊急時の知識の共有に努めている、主治医、看護師との連携を常に行い、急変事には連絡できる体制をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し、年2回ほど災害対応訓練をおこなっている。夜間想定避難訓練を実施している	近隣の事業所との合同訓練や、消火訓練を提携業者に依頼したりなど、毎回設定を替えて取り組んでいる。家族には運営推進会議のときに事業所の方針と避難方法を伝え、理解を得ている。備蓄庫もあり、食糧も3日程度の備えがある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1度のケア会議にて各利用者の状態を把握し、ケアの見直し、改善点を話し合い、適宜必要なケアを行えるよう努めている	職員連絡を利用者の前でしたり、職員同士が離れた場所で(大きな声で)やりとりすることがないように配慮している。同じ名字の人もいるので下の名前に「さん」をつけて呼ぶことをルールづけている。トイレ誘導の声がけも周りにわからない工夫があることを視認した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の発言しやすい雰囲気づくりをしている、訴えの少ない方に対しては答えやすい質問をするなど個々の利用者の性格を考慮し要望を汲み取るようつとめている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや、入浴など、何か行う前には必ず本人に確認する、何種類か答えを用意して本人のできること、やりたい事、やれそうな事に参加していただくようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる人は自分で選んでもらう、髪の毛の長くなった利用者には適時訪問美容師にきてもらい散髪、染髪を実施している、毎朝起床介助時に整容の時間を設け一緒に行うようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや量、大きさなど個々にあったものを提供するようにしている、週に何回か手作りや、画一的にならないようにいくつかの店を利用し、違う味を楽しんでもらう、食事の後の食器の片づけなどできることを手伝ってもらっている	他のケアサービスを充実させるべく長事は配長サービスを利用しているが、小鉢などを使い見た目の工夫を怠らないようにしている。また3ヶ所の業者を適宜活用し、惣菜屋や職員の手作りも織り交ぜ、飽きのこないようにしている。盛り付けやふきあげも役割と意識して利用者が手伝っている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を介護記録に記入している、毎食時だけでなく、適宜お茶やジュースを出すようにしている、夏場は夜間の巡回時も水分摂取していただくよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている、夕食後義歯を預かり、洗浄、消毒をおこなっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に時間、排泄内容を記入し、個々の排泄リズムを把握し、時間、様子をみて声掛けや誘導を行っている	月例ケア会議でも議題となっていて、「気持ちよく」「トイレで」といった視点で話し合いが進められている。バルーンカテーテルで入居した利用者が看護師の判断と家族の同意により対応方法を替えた結果、現在は自立しているというケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン・リズムを考え、食事内容にヨーグルト、バナナなど繊維質を多くとる工夫や、運動(歩くこと、お腹のマッサージなど)療法、必要であれば緩下剤の使用、看護師による浣腸・摘便等の行い、便秘の予防、解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮し、一人ひとりの希望に沿って入浴に誘うようにしている、場合により、リフト浴・シャワー浴・清拭など本人の意向に沿っておこなっている	湯は毎日のはっていて、日中なら時間帯も要望に応えることができる。数名の人が毎日入っているが、苦手な人もいて事業所としては1日おきを清潔保持のめやすとして、呼びかけを工夫している。マンツーマン介助のため会話を楽しむ利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床後にベッドメイキング・居室清掃・換気等を行い、いつでも清潔で整頓された部屋で安心して休んでいただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容がわかるようにファイルを作成している、服薬の服用チェックを行い薬の変更があった場合には申し送りノートに記入し情報の共有をおこなっている、気になることがあれば、看護師、家族、主治医に連絡をとり指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味趣向を知り、楽しく活動ができるよう支援している、外出の機会を設け気分転換の場をつくっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、毎月のイベントなど外出の機会を設けている、希望があった場合は事業所周辺の散歩などする時間をもうけている	天候や体調を考慮しつつ事業所の周りに散歩に出掛けている。また、ゴウヤや朝顔をプランターに植え水やりをしたり、ベンチでお茶を楽しんでいる。3ヶ月毎に職員が行事企画をする仕組みがあり、外出行事もそのなかに組み込み確実な実施に繋げている。企画することで事前に当日の日勤数を増やすなど、事業所の努力が覗える。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はご自分でしてもらう、利用者の希望に応じ欲しい物足りないものなどを把握、金銭管理ができない方の場合にご家族に相談し対応してもらうようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望、要望がある場合にはスタッフが家族等に連絡し本人と会話をできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日数回掃除を行い清潔・整理整頓をしている、エアコン加湿器を使用し、温度・湿度管理、次亜水による消毒、換気等を行い過ごしやすい清潔な共用空間づくりをしている、季節の花や利用者の制作物などを掲示している	設計段階から管理者の希望がはいっているため、動線や灯りとりへの配慮や空間の取り方など居心地の良さが随所に現れている。季節行事の貼り絵は毎月職員と利用者の協働で作り上げていて、日頃の関わりの温かさが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を理解し座席の位置に気を配っている。和室や窓際にソファを置いたり思い思いに過ごせる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の生活スタイル、照明の明るさ、温度、湿度などを見極め快適に過ごせるようにしている、毎朝清掃を行い清潔な空間づくりをおこなっている	エアコンと小さなチェストが事業所で備えてあり、伴侶の位牌や筆筒などそれぞれなじみのものを持ち込んでもらっている。掃除は職員がおこなっていて、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには車いすマーク、各居室には名札など、目的の場所がわかりやすいように示している、個々の能力に合わせ、杖、歩行器、シルバーカー、車いす等の使用をし自力で安全な移動ができるよう適時見守りや介助を行っている		